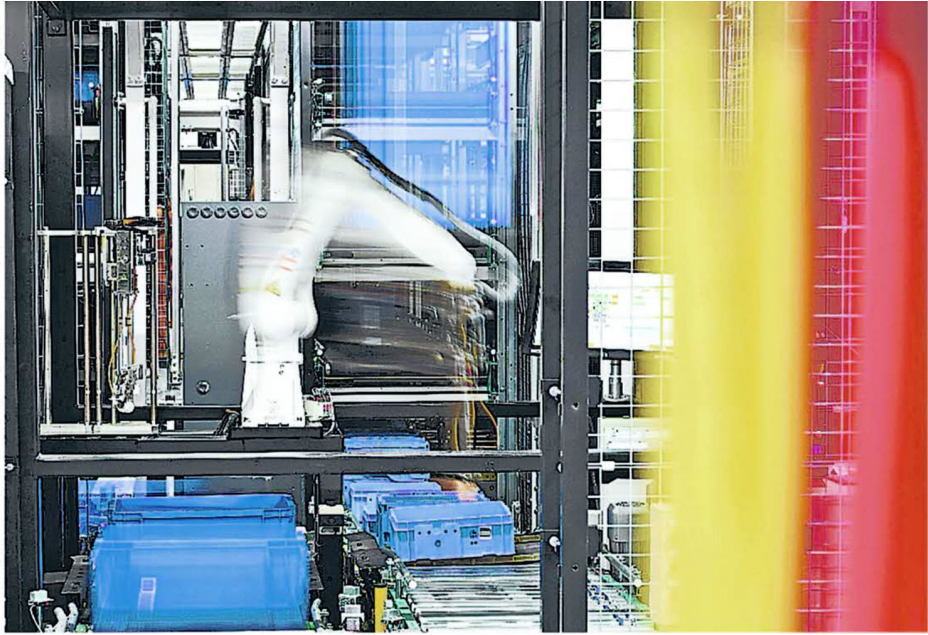
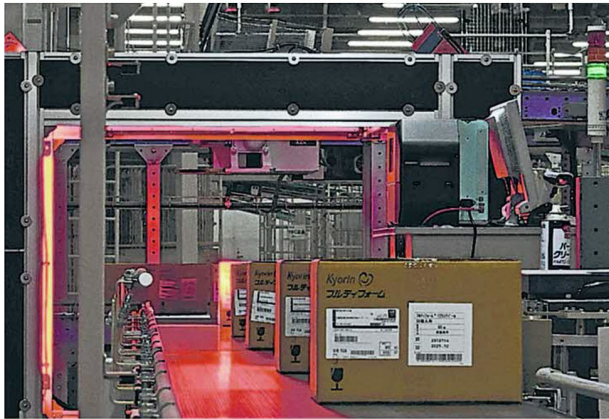


22台のアームがコンベヤーを流れる商品を自動で識別。届け先ごとのケースに移していく。荷崩れしないようにケースを積み上げる作業もロボットが担う



# ロボで正確に薬仕分け

東邦HDの医薬品物流拠点 (広島市安佐南区)



メーカーから届いた商品のバーコードを読み取って管理する。中身の個包装の画像や重さもデータ化し、取り違えを防ぐ



駐車場はドクターヘリや災害時の物資輸送のヘリポートとして使えるようにしている

動画は中国新聞デジタルで



ずらりと並ぶアームが滑らかに動き、コンベヤーを流れる青いケースに小さな紙箱を詰めていく。中身は薬や輸液だ。医薬品卸大手の東邦ホールディングス（HD、東京）が2018年に稼働した物流拠点のTBC広島。4階建て延べ約3万2千平方メートルの施設で、中四国地方の病院や薬局向けの商品を自動で仕分け

（写真・高橋洋史、文・村上和生）人が重い箱を持つ作業をなくし、取り違えも防ぐ。子会社のセイエル（広島市西区）の河野修蔵社長は「物流を省人化した分、地域密着の営業に専念できる」と語る。